

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 川上 次郎

論 文 題 目

Scheduled intravenous acetaminophen versus nonsteroidal anti-inflammatory drugs (NSAIDs) for better short-term outcomes after esophagectomy for esophageal cancer

(NSAIDs に対しアセトアミノフェン定期静脈投与が食道癌における食道切除後の短期成績を改善する)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

小寺 泰弘 

名古屋大学教授

委員

西 脇 公 俊 

名古屋大学教授

委員

碓 氷 章 考 

名古屋大学教授

指導教授

江 畑 智 希 

## 論文審査の結果の要旨

別紙 1-2

今回、食道癌術後の疼痛管理において、NSAIDs の定期経腸投与を中止し、アセトアミノフェン定期静脈投与に変更したところ、術後疼痛が改善し、縫合不全と術後せん妄が減少することが示された。2 群間の治療選択バイアスおよび潜在的な交絡因子の影響を軽減するため、患者背景を治療逆確率重み付け (IPTW) で調整し、回帰分析を行った。NSAIDs の中止により縫合不全が減少し、アセトアミノフェンの使用により術後せん妄が減少した可能性が示唆された。食道癌術後の疼痛管理において、NSAIDs とアセトアミノフェン、それぞれの有効性が報告されている。一方で、両者を直接比較した報告は少なく、特に NSAIDs の定期投与とアセトアミノフェンの定期投与による直接の比較は本研究が初めてである。今回の研究では、NSAIDs と比較して、アセトアミノフェン定期静脈投与の有効性と安全性が示された。





本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 両群の術後疼痛を比較するため、術後疼痛 Visual analog scale (VAS) と使用した。他の鎮痛薬による影響を比較するため、すべてのオピオイドの使用量を経口モルヒネ換算で比較した。2 群間でオピオイドの消費量に有意差は認められず、術後疼痛 VAS がアセトアミノフェン群で有意に減少した。NSAIDs と比較して、アセトアミノフェン定期静脈投与が食道癌術後の疼痛管理において優れることを示した。
2. 以前から大腸外科領域で NSAIDs と縫合不全との関連が報告されている。近年、上部消化管領域でも関連を示唆する報告が散見されるようになったが、食道癌術後のみでその関連性を示した報告はない。本研究では、NSAIDs の定期経腸投与を中止し、アセトアミノフェン定期静脈投与に変更したところ、縫合不全が有意に減少した。NSAIDs によるコラーゲン産生の減少や、血管新生の障害が縫合不全と関連することが示唆された。
3. 近年、アセトアミノフェンによる術後せん妄抑制の報告が散見されるようになった。特に、整形外科領域や心臓手術での報告がみられる。本研究では、アセトアミノフェン群で有意に術後せん妄が減少した。アセトアミノフェンの中枢神経系に対する抗炎症作用が術後せん妄の減少に寄与している可能性が示唆された。

本研究は、食道癌術後の疼痛管理において、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	川上 次郎
試験担当者	主査	小寺泰弘 	副査 <sub>1</sub>	西脇公俊 
	副査 <sub>2</sub>	碓氷章孝 	指導教授	江畑智希 
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. NSAIDsとアセトアミノフェンの鎮痛効果の比較について</li> <li>2. NSAIDsと縫合不全の関連について</li> <li>3. アセトアミノフェンによるせん妄抑制の可能性について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、腫瘍外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				